

3-10 情報センター等部門研修会

本研修会は、私立大学の情報教育・研究を支援する情報センター等部門における役割・機能について教育、研究、事務の側面から問題提起を行い、関係者による討議を通じて相互理解を深め、問題解決の方途を模索することを目的として、通算17回目の開催となる。なお、研修会の企画・実施・運営は研修運営委員会にて対応している。

(1) 開催要項の決定と実施準備

教育の情報化に関する実践例、問題点などを認識した上で、情報センターとして支援すべき内容を討議を通じて明確にすることを全体会から各分科会に共通するテーマとした。全体会では、教育現場で奮闘する教員より、ITを活用して学生の学習意欲を高めるためのアイデアと実践例、直面している問題点、支援体制への要望事項などを披瀝することにした。分科会は、前回と同様の編成とし、その中で、教育支援コースでは、教育の情報化に対応するための教育支援の方策を討議、事務の情報化支援コースでは従来の事務業務を改革して教育支援に結びつけるための方策を討議することとして両コースの相違点を明確にした。

第17回情報センター等部門研修会開催要項

1. 目的及び内容

本研修会は、私立大学の情報センター等の業務を直接または間接に担当する教職員を対象に、①情報化の方向性、②教育・研究支援(学術情報支援を含む)、③事務の情報化支援、④ネットワークの運用管理等、情報部門の責務と課題について研修を行い、関係教職員の資質向上と関係部門の発展に寄与することを目的とする。

統一テーマ：『大学は新しいメディア (IT) で何を行うか』

— ITを活用する教育の改革と教育支援 —

インターネットに代表されるコンピュータとネットワークが結びついた新しい情報技術 (IT) は「知」の創造や伝達の方法を大きく変化させ、社会・経済・文化など、あらゆる活動に変革をもたらしつつあり、教育においても、グローバル化を通して新しい高等教育の在り方が問われてきている。すなわち、従来の知識伝授型の教育から問題発見・課題探求能力の

育成に重点をおいた学生参加型の双方向的な教育への転換が求められており、授業方法の改善や、授業時間外の学習支援など、教育の情報化に関するさまざまな取組みが要請されてきている。

それには、大学としての組織的な授業支援が必要となる。とりわけ、大学の情報センター部門に携わる教職員は、これまでのシステムの管理運用に加えて、ITの活用を促進するコーディネータとしての能力が求められてきている。

そこで、今回は、情報センターや図書館、AVセンターなどが、情報技術を活用して教育を支援するための方策について、情報環境の整備、諸機関の連携、支援体制整備の進め方など、情報センター等による新しい教育支援の在り方を検討する契機としたい。

2. 基調講演 「教育現場と支援業務現場で共通の認識をもつために」

東 孝博 氏（獨協大学情報センター所長）

ITを活用した教育現場では、今どのような問題を抱えているのか。教員の立場からITを活用した授業改善の内容とその取り組みについて体験を紹介いただき、大学としてどのように支援することが望ましいのか、そのあり方を考える場を提供するとともに、事例を踏まえて、センター等部門職員の教育への支援について問題提起を行い、各分科会における討議の方向性を確認する。

3. 各分科会の研修内容

第1分科会 情報部門管理者コース

メインテーマ

「大学の情報化が目指すもの」

ITによって大学の環境（教育・研究・経営）をどう変えるか」

大学の社会的使命である人材育成のため、どのようにITを活用すべきか、情報部門の果たすべき役割とは何か？を考える。今の変革の時代において、管理者には、教育、研究、事務の支援の在り方についての判断力が求められている。例えば、教育改善のためのITインフラの可能性と限界、IT支援要員の確保、教職員のIT能力の研修、学内知的財産のセキュリティー対策、ITによる大学間の連携などに対する判断と行動力が求められている。そこで、このコースでは、大学が情報化の目標を設定する際の判断基準を整理し、情報部門の管理者が対応すべき課題について共通理解を図る。

キーワード：ITコーディネータ、ITによる教育・研究の支援計画作り、外部委託（アウトソーシング）の活用による要員体制の確保、情報のディスクロージャとセキュリティー、インフラ整備は永続的な課題か

参加対象：大学の情報センター、図書館、研究所等、情報部門の管理者

第2分科会 教育・研究支援コース

メインテーマ

「情報技術を活用し、大学の教育・研究を支援する

— 情報センターや図書館の再構築に向けて —

情報センターには、これまでの情報教育ではなく「教育の情報化」を支援するための組織的な対応が求められている。一方、図書館には、これまでの情報（図書）を蓄積、組織化し提供する機能から、教材・資料を電子化して蓄積する機能（デジタルアーカイブ化）や外部データベースへのゲートウェイとしての機能、さらには、学生が情報の洪水の中から必要とする知識を探索できるよう手助けする機能などが求められている。

このコースでは、各大学が情報技術の活用状況を披瀝し合い、例えば、教材・資料の電子化に対する支援、教員のWebページ開設・運用の支援、情報技術やソフトウェア、データベース利用のための講習会実施など、これからの情報センターや図書館が教育・研究へ積極的にコミットし、教育研究支援の中心的な役割を担うための方策について討議する。

キーワード：教職一体の教育支援（支援室）、デジタルコンテンツの促進策と教材作成支援、ノートPCなど移動体端末の活用と課題

参加対象：教育研究をサポートする情報センター、図書館、研究所等の教職員ならびに管理者の方。

第3分科会 事務の情報化支援コース

メインテーマ

「事務の情報化の方向性と課題

大学情報の共有化と情報公開を意識した業務改善」

これまで、事務の情報化とは、定性的な大量の情報処理を行い、その結果を出力することに主眼が置かれていたが、情報技術の普及により、それらの情報に加えて、日々発生する情報を複合し、個々の職員が教育研究活動の意思決定を支援するための新たな合意形成の手段となり得ることが期待されている。そのため、個々の職員が大学の目的である教育研究活動に意見・提言できるよう、学内情報のデータベース化をはじめ、交流のシステム（セキュリティ対策を含む）について検討することが求められている。本コースでは、情報技術を活用した業務改革のあり方について、情報の共有、公開、教育支援の視点から検討し、情報センター等の職員に必要な取り組みについて共通理解を図る。

キーワード：情報の共有化と開示、管理情報と戦略情報、教育・研究・事務の総合情報化、教育研究支援、情報リテラシー、個別システムと総合システム、個人と組織、データウェアハウス、OA化、業務改善、業務品質

参加対象：事務の情報化を通じて教育改革、業務改善、大学改革を担当し推進する方

第4分科会 ネットワークコース

メインテーマ

「ネットワークの運用管理と情報セキュリティー

ー自由と安全の狭間でー」

今日、インターネットは教育・研究活動の様々な領域で活用されているが、インターネットの普及に伴い、大学のネットワークへの不正侵入・不正使用や、迷惑行為、ネットワーク犯罪など、多くの問題が生じており、構成員が関与した場合には、教育機関としての大学の姿勢が問われてくる。教育・研究目的の追求のため利用者から求められる自由（利便性）と、安全（セキュリティー）の狭間でネットワーク管理者の使命は重くなる一方である。本コースでは、急速に拡大する利用者の要求に対して、ネットワーク利用のあり方や管理基準、運用体制のあるべき姿を模索する。

キーワード：情報倫理（ネットワークの不正使用の防止に向けて）、個人情報保護とネットワークポリシー、学内ネットワークとプロバイダーの活用、ノートPCなど移動体端末の活用と課題、認証方式

参加対象：ネットワークの運用管理に携わる情報部門の教職員ならびにネットワーク管理者。

4. 実施日程 平成13年9月4日（火）～6日（木） 2泊3日

（2）開催結果と次年度開催計画の検討

参加者は、73大学、4短期大学、賛助会員3社より115名であった。開催結果の詳細については資料【資料12】を参照されたい。次年度の開催計画について検討した結果、情報センターが大学における教育支援の中心的な役割を担うための方策について討議することを各分科会共通のテーマとした。開催時期について検討した結果、情報センターでは夏期休暇中にシステムのリプレース等の作業が生じることが多くいたため、開催時期を10月下旬に変更することにした。開催場所については、プレゼンテーション環境やネットワーク接続など情報インフラの整備されている大学施設を借用する方向で検討を進めている。